



19

【Q】92歳女性です。50代より、足首から足底にかけて灼熱感としびれを自覚します。あまりの熱さに夜目が覚め、水を当てる冷やすこともあり。脊柱管狭窄症の手術を10年前に受けましたが、よくなりませんでした。この状態は治るのでしょうか。また何か対策はあるのでしょうか。

【A】一般的に足に異常な感覚を自覚する状態

足の熱さとしびれ



村野 俊一
むらの しゅんいち

を引き起こす病気として、種々の末梢神経障害、腰部脊柱管狭窄症、むずむず足症候群、足根管症候群、灼熱脚症候群などが考えられます。

ご質問の女性は10年前に脊柱管狭窄症の手術を受けたとおっしゃっています。一般的に腰の脊椎から出る神経は足の運動、感覚、排便・排尿に関係します。もし腰痛や「歩行すると次第に下肢の痛みやしびれが生じ、しばらく休むと軽快する」といった症状がある

灼熱脚症候群の可能性も

下都賀郡市医師会理事。とちぎメデイカルセンター下都賀総合病院(栃木市)院長。千葉大卒。66歳。

る」といった症状がある場合、また頻尿、残尿、失禁、便秘、陰部のしびれなどがある場合には腰部脊柱管狭窄症が完治していないか、再発していることが疑われます。

別に「足首から下が熱い、しびれる、痛む」という症状をきたす灼熱脚症候群という病気があります。この病気では下肢の筋力低下やふらつきなどの症状はほとんどありません。原因として糖尿病、慢性腎臓病、ビタミン欠乏、甲状腺機能低下症、アルコール中毒など

が知られています。原因が特定できないこと(特発性)も多いのですが、原因が見つかった場合はその疾患の治療を行います。原因が見つからなくとも症状を和らげる方法として、「足を冷水に浸してみる」「なるべく足を使わずに休ませ

る」「より自身の足に合った靴を選ぶ」といったことが知られています。ただし、氷を直接局所に当てるのは凍傷の危険があります。

お手紙から考えられることを、実際に足に熱はないものとして、脊柱管狭窄症と灼熱脚症候群を



イラスト/松本茂貴

SHIMOTSUKE GRAPHICS

中心に述べさせていただきました。病気の正確な診断のためには詳しいお話を直接伺うことに加え、診察や検査が必要です。1度お近くの神経内科を受診されてはいかがでしょうか。

(第2、4金曜日掲載)

ドクターへの質問を募集します。お寄せいただいた中から毎月2件、紙面で回答します。病気の症状や経過などをなるべく詳しく書いてください。名前(匿名可)、年齢、性別、連絡先(住所、電話番号)を明記し、〒320-0868、下野新聞社くらし文化部「健康よろず相談室」係へ。住所不要。FAX(028・625・1185)、メール(dotoko@shimotsuke.co.jp)でも受け付けます。